

令和元年 司法試験合格体験報告会



日時：2019年9月19日（木）14:00～17:00

場所：豊中総合学館4階401講義室

大阪大学大学院高等司法研究科

合格体験報告会

矢野竜二

第1. 自己紹介

1. 経歴

- ・兵庫県立北須磨高校卒業
- ・浪人（1年）
- ・神戸大学法学部法律学科
- ・大阪大学法科大学院（既習）※3年次に予備試験合格

2. 予備試験成績

- ・短答 195点（289位）
憲26 行15 民20 商21 民訴26 刑法24 刑訴30 教養33
- ・論文 263.51（171位）
憲B 行C 民D 商A 民訴A 刑法B 刑訴B 教養D 実務C

3. 司法試験

- ・短答 144点（350位）
憲38 / 50 民71 / 75 刑35 / 50
- ・論文 成績待ち

第2. 私の勉強法

1. 司法試験の短答

落ちないことが大事！民法を固めれば落ちない！民法が一番配点が高いし、憲刑と比べて点が安定しやすい科目。

（1）過去問をたくさん回す

ロースクール2年間で辰巳のパーフェクトを各科目10回以上は回した。本番は過去問と同じ足が出る場合が多いので効果的。

※直前期は効率化アップのため、民法は（2）の方法で、憲刑は間違えた問題だけ行い、時間短縮。

（2）判例六法の素読

特に民法で大事。民法は、条文と判例の結論を抑えておけば、ほとんどの問題が解ける。過去問の情報（解答のポイントになった部分、出題頻度等）を判例六法に落とし込んでいく。→短時間で過去問復習が可能に

2. 論文

(1) 演習問題の繰り返し（インプット）

演習問題を自分の中にストックする。私は伊藤塾の論文マスターテキスト。トータルで各科目 10 回は回した。

(2) ローの授業の復習（インプット）

司法試験に必要な知識を吸収する。受講した全ての授業のレジュメやノートを復習するのは無理だったので、特に必要と思ったものを選択し、それぞれ 5 周は回した。

(3) 過去問分析（インプット）

司法試験の過去問を過去 5 年分は 3 度程読み込んだ。選択科目（倒産法）は過去 10 年分。選択科目以外は特に答案を書くことはあまりしなかった。

(4) 答練・模試（アウトプット）

2 年次と 3 年次の 5 月から伊藤塾の予備試験直前答練と 3 年次の 1 月から伊藤塾の司法試験直前のペースメーカー答練、及びそれらに付属する模擬試験を受けた。

第 3. 私が考える司法試験合格のために重要なこと

⇒スケジュールリング

→ 少し先の目標を定め、それをクリアするためにやるべきことは何か考え、それをどのペースでどの程度行うかの計画を立てて、一つずつクリアしていく。

・「やるべきことは何か」は過去問分析によって知る。

→過去問を見ても、次何が出るかはわからないが、その試験の傾向はわかるので、やるべきことの優先順位をつけることができる。

・「どのペースでどの程度行うか」は自分の能力と相談。

→私は、ある知識につき、それを試験で表現ができる程度に覚えるためには、直前期に 3 回程読み込む必要があるので、優先順位の高い知識を中心に、試験直前期に 3 回まわすペースで行う。

・「目標」は、**司法試験、予備試験、期末試験、模試、答練** 等が考えられる。この中で、見落としがちなポイントは予備試験。予備試験の論文試験は最も司法試験に近い最高のアウトプットの場合。司法試験にとって重要な資料を提供してくれるので、中間目標設定として最適。

◆予備試験の自己分析

論文試験で、民法と行政が悪く、民訴と商法が良かったので、それぞれの原因を分析した。

民法は、大きな論点から小さな論点まで幅広く存在したが、大きな論点を掘り下げて書きすぎたため、時間も足りず、小さな論点を多く落としてしまった。また、検討していない要件もあった。論述も少しごちゃごちゃしてしまい、読みにくい答案になった。行政も、網羅的に拾うという視点が欠落していた。裁量のあてはめは頑張ったが、事実の評価が無駄に長く、もっと簡潔にまとめる必要があったと思う。

一方、商法は、一つ一つ要件を確実に検討し、わかりやすくまとめることができた。また、現場思考型の問題であったが、問題の所在を示し、条文の趣旨からわかりやすく論じることができた。民訴も、わかりやすく、簡潔に、一つ一つ論点を検討できた。

民法と行政は、答案用紙4枚をほぼフルで使ったのに対し、商法と民訴は、2枚半程度の記述量であったがAが来た。簡潔でわかりやすいことが大事ということ。

まとめると、漏れなく、丁寧に、簡潔に検討し、読みやすいが評価され、深い検討ができていたとしても、長ったらしくわかりにくい答案は評価されないということがわかった。

第4．最後に

ロースクール生活は、授業、期末試験、予備試験、就職活動、司法試験とかなり忙しかったが、その分、今すべきことは何で、それをどのペースでこなす必要があるのかということを常に考えて行動することを強いられたことで、メリハリのあるものになった。だらだらと長時間勉強していた学部時代よりも力が付いたと思う。ロー生活は長いので、自分には余裕がないから期末試験で手を抜くとか、予備試験を受けないとかではなく、プラスになることは積極的に取り組んで、実りあるロースクール生活を送ってもらいたい。

2019 年度修了生 船津 有貴(既習・1 度目、短答 117 点)

私は、留年という辛酸を舐めた後、心を入れ替えて猛勉強し、特待修了生として卒業するまでに至り、最終的には、一発合格を果たした。

私の失敗の原因は、基本書や判例集を漫然と読み流していた事と、答案を全く書いていなかった事の 2 点である。この 2 点を改善し、爆発的に成長した。本日はこの 2 点について、具体的には、使用教材とその使用方法や、ゼミの組み方等について説明する。

憲法:ゼミ有(2 年次、4 人、週 1、2～3 時間)

過去問 H18～30 ★

ゼミで一周。事例研究憲法や演習ノートにも手を出したが、個人的には、教材としては過去問が一番良いと判断した。

憲法は結局、答案でどのように何を書いたら得点になるか最後まで掴めない科目だったので、あまり時間を割かなかった。

判例タイムス、判例時報、調査官解説★

基本書を読まない分、判例学習は入念に行った。

規範の論理展開や、あてはめで拾う事実、事実の評価、判例の射程の考察などの解説を読み込み、タイムスや時報に書かれていた事を答案で同じ様に書ける状態にしておいた。

行政法:ゼミ有(2・3 年次、4 人、週 1、2～3 時間)

過去問 H18～30★★★★★

レベルアップに時間が掛かるので、どんなに遅くとも三年生の夏には始めること。

ゼミで一周。過去問の復習は何度もした。

行政法は、思った事を文章にしにくい科目なので、友人の答案はかなり参考になった。優れているところを真似しながら復習した。良問と思った年度は、スムーズに論理展開出来るまで何度も復習した。過去問に歯が立たない人は事例研究行政法と過去問を並行でやる。

CB 行政法(逐条行政法でも可、とにかく判例引用の長いものを!)★★

判例のあてはめで拾う事実や法的评价は、同じように書けるように読み込んだ。行政法は、規範は、判例の通りに書き、あてはめ勝負なので、とにかく、判例がどのような事実をどのように評価しているか、同じ様に書けるまで読み込んだ。

民法:ゼミ①ロープラを回すゼミ(2人、週1)、②再チャレ(司法試験過去問、4人、月1)

過去問 H22~30★★★★★★

民法において、過去問をやりこむ事は必須である。司法試験で最も難しいのが民法である。現場思考問題、趣旨から考える問題に慣れておく必要がある。実力のある友人とゼミを組むこと。深い議論はせず、分からない点はすぐ先生に聞くこと。どの年度も、採点実感で一定の水準~優秀とされるポイント・判例を押さえている答案を書けるようになるまで復習する。

百選★★★★★★

百選の判例の事案、規範、あてはめ評価、結論は最低限理解する(他人に説明できるくらい)。直前期には、判例の射程について考察するなど(ある事情が変われば、規範がどのように変わるのか、評価がどのように変わるのか考えながら読む)、実践的に百選を利用した。規範を覚えることより、ポイントとなっている事情と規範や評価、結論との関係を理解するほうが大事である。なお、この百選の読み方は、全科目共通である。

ロープラクティス民法★★★★

ロープラは、学者の先生が最近注目している論点・判例を知れる点で有意義である。学説が対立しているようなところは、問題作成者たる法律家が注目しているポイントである。そのような箇所が司法試験では出題されるので、意識して学ぶ。

また、判例の射程への考察なども解説に載っているので、司法試験に向けた実践的な頭の使い方が出来る教材である。2~3年で新しい版が出るので、常に最新の情報を得られる点でも、優れている。さらに、千葉先生が参加されているので、阪大生は直ぐ著者に質問に行ける点も素晴らしい。私は5周以上読み、ポイントは全て頭に叩き込んだ。

商法:ゼミ無し。過去問は問題と解説をサッと見ただけ

★商法は、民事の中で、唯一、得点を伸ばしやすい科目である。商法を固める事が合格への近道!!!!

事例演習教材会社法★★★★

何周したか分からないくらいやり込んだ。特に1部について、Questionの答えは、全て何も見ずに他人に説明出来るくらいやり込んだ。

判例百選★★★★

民法の百選の使い方同様。商法判例集より百選(解説がある為)。

予備試験過去問★

商法の問題は、予備試験の過去問から毎年一題くらい出ているから見ておく。司法試験や予備試験の過去問の出題傾向を確認すると、そろそろこの論点・判例は来そうだな…と分かる(私は今年の司法試験で、設問2のヤマが当たった)。とはいえヤマを張るのは最終手段。問題集や判例集をきっちりやった上で、余力があれば見ておく。

民訴:ゼミ①6名くらいで、期末試験前のみ、②再チャレ(司法試験過去問、4人、月1)

過去問 H22～30★★★★★

民訴の過去問は、民法同様、特殊である。制度趣旨から考えさせられる問題が多く、鬼門である。過去問を何度も解き、制度趣旨から考える、という事に慣れておく必要がある。答案の書き方として、「正直よく分からない!」というところは、ボロを出さないよう、長々書かず、確実に分かることだけサラッと書く。理解しているところは、自信を持って丁寧に書く。また、聞かれてもいないのに、定義などを書く事は賢明でない。予備校などは、民訴は定義から書く!という風に教えるかもしれない。論理展開上、定義から書く必要がある場合にだけ、定義は書くべき。答案はなるべく短くまとめる。

ロープラ、百選★★★★

民法と同様。

刑法:ゼミ有(3人→4人、週1、授業の予習ゼミから司法試験過去問ゼミへ成長)

事例演習教材刑法★★★★★

受験生必携である。この教材をやらないという事は、合格圏内の受験生に大きく後れを取るという事である。一人で学習するのは難しいので、友達とやる事。

私は、問題タイトルをみただけで、論点が全て思い浮かんでしまうくらいやり込んだ。

なお、過去問は全年度解いたが、事例演習教材の方が有意義であった。

近年の傾向では学説の理解は必須だが、基本刑法&短答の勉強をしているうちに勝手に書けるようになる。私は特に手の込んだ対策はしなかったが、本番では困らなかった。

刑訴:ゼミ有(司法試験過去問、4人、週1、2時間)

百選・三井教材★★★★★

刑訴は、現場思考問題や、判例の射程を問う問題はほぼ出ないので、百選をベースに、規範の暗記、学説の理解に徹した。学説の理解は基本書(私は上口先生の基本書だが、よほどマニアックなものでなければ何でも良いと思う)。近年の傾向では、学説の理解は必須。網羅的に理解するよりも、**受験生なら誰でも知っているようなところを完璧にしておくべき**。あてはめについては、三井判例教材を読み込み、拾うべき事情、評価を判例と同様に書けるようにした。

予備試験過去問★

刑訴も司法試験と予備過去問の両方を使ってヤマを張れる。訴因関連の問題が出ると予想した結果(近年、やたら予備で訴因の問題が出ていた為)、実際今年の設問2は訴因変更が出た。凍りついた学生も多かったと思うが、私は冷静に処理出来た。

労働法:ゼミ無し。答案作成はしていない(暗記に時間を当てた)

大内判例200選、事例演習労働法(水町先生)★★★★★

上記2つの教材と基本書(土田先生の労働法)をベースにまとめノートを作り、規範・あてはめを**判例と同様に書けることを意識**して何回も読み直して頭に叩き込んだ。12月頃からまとめノート作りを開始し、直前期に短期集中で取り組んだ。過去問は一度も解いていない(判例を覚えているかどうかの問題なので、判例暗記に時間を割いた方が良いと判断した為)。労働法は暗記科目なので、短期集中で頭にひたすら叩き込むのが効率的。本番で最も手ごたえがあったのは労働法なので、この学習方法は良かったと感じている。

1 自己紹介

2015.3 大阪市立大学法学部 卒業

2015.4 大阪大学高等司法研究科（未修）入学

2018.3 同大学院卒業

2018.5 司法試験受験→不合格

2019.5 司法試験受験→合格

* 予備校の講座は一切とりませんでした

2 司法試験（論文）の結果について

1 回目

憲法 行政法 民法 商法 民訴法 刑法 刑訴法

2 回目

結果待ち

3 学習スタイルについて

- ・基本書や判例集の色分け
- ・試験前の短期記憶が得意だった。

→小テストや期末考査はレジュメや過去問をほぼ丸暗記していた。

→要点学習を繰り返すことで体系的な理解はしやすくなったり、授業内容の記憶喚起につながる利点あり（後々まで役に立った）。

→単位をひとつも落とすことなく特待生に入る程度の成績は維持できたものの、短期記憶は忘れやすく、また答案構成をする習慣もつかなかった（この点は私には合っていたかも？）。

- ・ゼミを中心に勉強。

→ゼミは常に複数掛け持ち。

1 年次のゼミ：授業と過去問中心（どこまでやりたいか）

司法試験ゼミ：週 2 で予備試験と司法試験を中心に問題集も解いた（4 人、添削スタイル、答案から学ぶために既修こみ、男女こみ、仲良しグループにならないように、まとめ役をおく）

再チャレ：司法試験と問題集（4 人、添削スタイル、軽く学生だけで事前のゼミをして質問事項をまとめて提出）

経済法ゼミ：3 年生になってから？

問題集を解くだけのゼミ：添削のみ。集まらないペースメーカー。

その他、会社法ゼミ、短答ゼミ・重判ゼミ etc...

→答案の書き方、他の受験生のレベル、答案の配分を知るために非常に役に立った。

→反面、復習しきれなくなっていた部分も。

- ・短答対策のあまさ。
- ・条文は通読せず問題を通してよく使うものを把握していた。
- ・自習室にいる時間

4 不合格後の改善点

- ・短答対策

→短答過去問パーフェクトと苦手な部分は肢別（付箋で色分け）、択一六法

- ・ゼミは週 1～2 で計 3～4 科目（司法試験中心）
- ・分からないことを追いすぎない
- ・模試の配点欄に注目
- ・不合格はいち早く報告

5 よく使っていた基本書・問題集

憲法：憲法 I、憲法の地図、択一六法

行政法：基本行政法、事例研究行政法、基礎演習行政法、ロープラ行政法

民法：民法の基礎（佐久間）、債権総論（中田）、債権各論（潮見）、事例で学ぶ民法演習、択一六法

商法：リークエ会社法、有斐閣ストゥディア会社法、事例研究会社法、会社法事例演習教材、事例で考える会社法

民訴法：民事訴訟法講義案、リークエ民訴法、基礎演習民事訴訟法、ロースクール演習民事訴訟法、ロープラ民訴法、択一六法

刑法：基本刑法 I・II、刑法事例演習教材、事例演習刑事法、択一六法

刑訴法：リークエ刑訴法、事例演習刑事訴訟法

経済法：条文から学ぶ独占禁止法、論点解析経済法

*趣旨規範ハンドブックも適宜利用していました。

6 終わりに

1、2 年生の皆さんはぜひ授業を大切にしてください。なるべく早く自分の勉強スタイルや生活リズムを確立させてください。

3 年生の皆さんは、時間がないように思えますが実はまだまだこれから時間があります。皆さんの合格をお祈りしております。

自己紹介

氏名：若林 直樹（わかばやし なおき）

経歴： 2012 年に大阪外国語大学外国語学部（トルコ語専攻）を卒業

一般企業で 4 年間勤務。医療機器等の取扱説明書の作成・翻訳業務に携わる。

2016 年に大阪大学高等司法研究科（未修）に入学。

2018 年に司法試験予備試験に合格

2019 年に大阪大学高等司法研究科を卒業、同年司法試験に合格

勉強方法について

はじめに

私は、いわゆる純粋未修者です。個人的な事情から、司法試験を 2 回受験することはできない状況にありました。そのため、ロースクール在学中は、三年という期間を使っていかに 1 回目で司法試験に合格するか、に焦点を当てて勉強していました。勉強方法は、人それぞれ合う合わない方法があると思います。今日のような機会も含めて、ぜひ多くの先輩方から経験談を聞いて、自分に合った勉強方法を探されたいと思います。私の経験が何かの参考になれば幸いです。

3 年間の勉強方針

私は、1 年生の夏休みに司法試験合格に必要な知識はどの程度か、各科目をどのレベルまで仕上げるのか、といったことを簡単ですが、表にまとめて計画を立てていました。計画は、各年度の長期休みごとに見直し、修正し、司法試験受験までの勉強に反映していました。

私の大まかな勉強方針として、特に意識したのは、以下の 3 点です。

- － 他の既修入学者と差をつけるため、判例学習だけは手を抜かない。
- － 民法・憲法・刑法は、法学部出身者有利となるので（どうしても経験年数の差は埋められませんので）、短答試験突破できる程度にまんべんなく勉強するのみとし、力を入れすぎない。
- － 逆に下四法＋選択科目（経済法）は、既修者でも最初からきちんと押さえられている人は少ないので、力を入れて得点源とする。

上記大まかな勉強方針を前提としたうえで、ロースクールの授業・友人とのゼミを中心に勉強していました。その際には、以下のようなことに気を付けていました。

- ロースクールの授業が司法試験範囲のどの範囲までカバーするのかをシラバス等を見て確認し、自習に委ねられている部分を長期休み等で補充すること
- その学期は勉強しないと決めた科目であっても、授業・定期テストの手は抜かない
- ゼミでは、自分一人では能力的・精神的に難しい作業を行うようにし、また何を目的として、ゼミで何をしているのかを意識する

3 年間の具体的な勉強内容

別紙参照

ロースクールの授業の活用方法について

基本的には、未修者で入学して、必修科目を選択していれば、司法試験受験までに十分な知識が身についていると思います。ロースクールの先輩方に色々と質問すれば、各授業の評判も分かると思います。特に気を付けるといいなと思うのは、以下の通りです。

- 授業の評判は、科目名（民法基礎 1、民法応用 2 など）ではなく、担当される先生方がどのような授業をされるのか（演習が中心なのか、講義形式なのか、自習色が強い先生なのか否かなど）、を聞いた方が良い。
- ロースクールの授業レジュメを最終のまとめノートにしたい場合、授業レジュメはどの範囲までカバーしているのか（司法試験まで耐えうる内容となっているか）を直接先生に尋ねるなどして確認した方が良い。様々な先生方が授業をしてくださる関係で、民法のレジュメは、まとめノートのベースとしては活用しにくいことが多い。
- ロースクールのカリキュラム上、2 年後期・3 年生で学習することになっている内容は（民事訴訟法の複雑訴訟など）、司法試験から逆算して仕上げられるかどうかを確認し、厳しいようであれば長期休みに自習することも検討する
- コアカリキュラムを活用し、授業で重点的に扱っていても、他により重要とされている分野があるのであれば、授業を重視しすぎない。

教材（教科書、参考書、判例集、問題集等）について

私が使用した教材は、主に未修者の基礎の授業で教科書指定されていた教材を使用していました。また、司法試験受験者の間でよく使われている教材は、ひとり目を通していました。

教材については、色々と良し悪しの噂を聞くことがあると思いますが、あまり気にすることはないと思います。自分が使っている教材がメジャーなものなのか、マイナーなものなのか、使っている教材の長所・短所は何か、といったことを理解できていれば、どの教材を使っても大差はないと思っています。教材に迷っているのであれば、先生方に相談すれば色々と教えてくださると思います。

ゼミについて

ゼミは、自分の勉強に支障がない限度で、多少無理をしてでも積極的に組んでいました。答案を書いて検討するゼミだけでなく、朝9時から大学に来るためのゼミ、精読憲法判例を一周するためのゼミ、互いに勉強を教えあうゼミなど、内容も様々です。メンバーも、既習・未修・学年限らず色々な友人とゼミをしていました。とりあえずやってみて、合わなければ解散、といった感じでも良いと思います。

まとめノートについて

別紙参照

合格体験談

金原澄佳 未修 受験回数 1回

私は、論点を落とすことが多かったため、何故その論点を書けなかったのか考えながら勉強をしました。知識が入っていなかった場合は基本書に立ち返り、事実が拾えていなかったり評価が上手く出来なかった場合は、判例を参考にしたり、参考答案を読みました。問題文の誘導に気づけなかった場合は、予備校の解説本で問題文のどこが誘導になっていたか確認しました。知識を入れるにしても、ただ暗記するのではなく、出題の趣旨を読み取れるように、どこが重要か意識しながらインプットしました。

司法試験合格を目指している人は、皆努力をしています。その中で一步前に出るには、努力も必要ですが、一点でも多く稼いでやろうという貪欲さも必要かと思います。

ダメかもしれないと思うときがあるかもしれませんが、最後まで諦めずに頑張ってください。

勉強仲間が合格へ導く

矢野竜二（既習 受験回数1回）

私が司法試験の長い道のりを乗り切ることができたのは間違いなく勉強仲間がいたからです。司法試験までの過程は長く、勉強は基本的に面白くないので、モチベーションを維持するのは難しく、小さな目標が無ければ「こなすだけ」の勉強になりがちです。私の周りには常にしのぎを削り合う勉強仲間がいました。それは自主ゼミ等で一緒に勉強する友人であったり、一緒に勉強はしていないけど意識し合うライバルであったりしました。「次の〇〇試験であいつに勝つ」という目標を立ててそれに向けて必死に勉強する。勝てば達成感を味わえて自信も付くし、負ければ悔しくて「次は絶対に勝とう！」となるので、常に刺激が得られます。それを一つずつ積み重ねていって、小さな結果を出し続けることで、勝負強くなってくると思います。「期末試験は司法試験につながらない」とか、「受験資格は得られるので予備試験はもういい」とか言うのではなく、目の前にある試験で「あいつらに勝つ」と念じて、結果に拘る姿勢を持ち続けていれば、気が付けば司法試験に合格していると思います。